

Ready Set Go!

よーい
どー!

特集 ①

Small Talkを 取り入れよう

特集 ②

評価はどうなる？

Tips for Activities!

～やってみよう 英語活動～ 行ってみたい場所を伝えよう

VIVA 100KING! 「抽選箱」

Small Talk を取り入れよう

小学校の外国語の授業において、話題になることの多い「Small Talk」。先生と児童、児童同士でおこなう言語活動の1つですが、『We Can!』の誌面にあらわれていないため、その取り組み方は様々です。今回は、福井県勝山市での「Small Talk における授業改善」を取り上げ、その取り組みについて、中心的役割を果たされた水上直子教頭先生と林裕美先生に、何にポイントをおいて活動を進めていけばよいかうかがいました。

新学習指導要領の全面实施を見据え、現在、各小学校では、時数の生み出し方、評価の在り方、ALT などの人的環境や ICT 環境・教材教具などの物的環境を含む環境整備、授業改善のための校内研修等、色々な準備を進めていらっしゃると思います。

本稿では、最近、特に話題にのぼることの多い「Small Talk による授業改善」を取り上げ、私達の取り組みの経緯や考え方、進め方の具体についてお伝えしていきます。

1. Small Talk を授業に取り入れよう！

新しい小学校外国語活動及び外国語の学習指導要領では、「言語活動を通してコミュニケーションの資質・能力を育成すること」をともにその目標としています。

そこで、私達は、「授業の中に言語活動の時間が保証されているか」「活動が（語彙や表現の）記憶力の育成ではなく、英語によるコミュニケーション能力の育成となっているか」という2つの観点を授業改善の取り組みにあたってのポイントとすることにしました。

私達はまず、Small Talk とはこういった活動を指すのだろうかということについて考えることから始めました。「Small Talk とは、読んで字の如く、小規模の（短い）対話。対話はコミュニケーションの1つだから、Small Talk とは言語活動の1つと考えて間違いはないだろう。ということは、Small Talk を積極的に授業に取り入れることは、言語活動の時間を児童に保証し、語彙や表現の記憶力ではなく、コミュニケーション能力を育成することになるはずだ」という結論に至りました。こうして、私達は、授業改善のための手立ての1つとして Small Talk を取り入れることにしました。

2. Small Talk とは

さて、実際に授業で Small Talk、すなわち、「短い対話」を取り入れようとしてみたところ、「Small Talk の定義があまりに漠然としすぎていると、かえってイメージが湧かず、どうしているのかわからない」ということに気付きました。確かにあまり身構えずに、気軽に取り組んでみようという気持ちは大切ですが、取り組み自体が進められないことには話になりません。

そこで、Small Talk の定義を理解すべく、文部科学省発行の『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』で確認したところ、Small Talk をおこなう目的について次のように書かれていました。

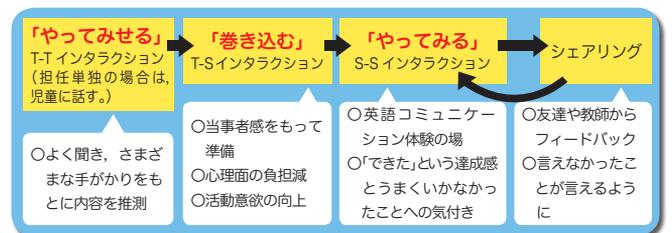
- (1)既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る。
- (2)対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。

どうやら、「学習した表現と対話を続けるための表現を、繰り返しの中で定着させていく言語活動」であるようです。

考えてみれば、私達は普段から児童の興味関心のあることを話題に、相槌を打ったり、確認したり、尋ね返したりしながら、休み時間等に雑談を楽しんでいます。「ああ、普段、児童と会話していることを、ちょっと英語にしていけばいいんだ。その中で定着を図っていけばいいんだ」と少し気持ちが楽になり、やってみようという気になってきました。活動のマンネリ化により、児童が飽きてしまうのではないかという心配もありましたが、たとえ同じ話題の言語活動（例えば道案内）であっても、相手を替え、状況や場面の設定を少し変えることで、4、5コマくらいであれば、児童は飽きることなく同じ活動、やり取りを楽しむことができることもわかりました。以前は、児童は飽きやすいから、楽しくしなければとクイズやゲームばかりしていましたが、そうではないことを児童に教えられたことも大きな発見でした。

3. 実践の中で見えてきた流れ

こうして気軽に「やり取りを楽しもう」という気持ちで始めた Small Talk の実践ですが、試行錯誤の中で、次のような基本的な進め方が見えてきました。



Small Talk をおこなう際には、まずは教師が「やってみせ」、徐々に児童を対話に「巻き込み」、その後、実際に児童同士で「やってみる」。こうした体験の中で、気付いたこと等を全員で共有しながら繰り返しおこなうと対話が続けられるようになるということが見えてきたわけですが、また、焦らずに、時間をかけて緩やかに取り組むことが大切だということもわかってきました。

繰り返しになりますが、気軽な気持ちで始めた実践ですから、活動の流れや型をきちんと決めたわけではありません。ですから、必ずしもこの順番でおこなわなければいけないわけではありません。あくまでも大きな流れとして認識しているという程

度です。したがって、児童とやり取りをする時は、児童の反応や雰囲気を見ながら臨機応変にやり取りの順番を変えたり、省略したりすることもあります。また、児童同士（S-S）のインタラクションの時にやり取りの様子を見て、必要があれば先生と児童（T-S）とのインタラクションに戻す、シェアリングの後に、再度相手を替えてやってみるなど自由に進めていきます。重要なのは、児童が本当に伝えたいことを自分の言葉で相手とやり取りできているかに注目して進めることだと考えています。

また、英語の語彙や表現を教え、練習を十分にしてから対話をさせる流れではないため、シェアリングの機会が大切であることを特筆しておきます。活動の中で、児童が難しかったこと、言いたいけれどできなかったことを共有すると、「練習してできるようになる」という気持ちも共有できるため、練習の必然性が児童自身の中に生まれ、練習時間も短く、集中しておこなえるようになりました。

4. 担任が心掛けるべきポイント

Small Talkを進めていく上で、担任が最も心掛けるべきことは、児童の発言の「形式」ではなく「意味」に集中することです。わかりやすく説明するために、次の2つのタイプのやり取りをご覧ください。

タイプ1

T: Do you like snakes?
S1: Yes.
T: Good! でも, Yes, _____ .
(下線に入るI doを身振りなどで促す。)
S1: Yes, I do.
T: Oh, great! Good job!!

タイプ2

T: Do you like snakes?
S1: Yes.
T: ええっ? Really? Do you like snakes?
S1: Yes.

タイプ1は、従前の授業でよく見られたやり取りです。教師は「英語を教えないではならない」という意識が強く、多くの人が得意でないであろう蛇を好きだという児童に対し、驚きもせず「いいね!」と答えます。さらに、「正しい」応答である“Yes, I do.”を言わせるための工夫をし、正しく言えたことを「よくできた! すごい!」と称賛しています。日本語であれば、いかに不自然なやり取りをしているかがわかるでしょう。

一方、タイプ2のやり取りでは、教師は、「蛇が好きか」という問いに対する児童の答えを大切にしています。自分が投げかけた質問なので、教師はその答え方ではなく答え自体を、まずは受け止めなければなりません。私達はその点を大切に、まずはタイプ1からタイプ2への転換を目指しました。

とは言え、何度繰り返しても、“Yes.”で終わっているのも残念です。そこで、現在、私達は、タイプ2のやり取りに引き続いておこなう、次のタイプ3が目指すべき姿ではないかと考え、こうしたやり取りをおこなおうとしています。

タイプ3

T: OK. (児童全体に向き直り) Everyone, S1 likes snakes. I don't like snakes.
S2, do you like snakes?
S2: No, I don't.
T: OK. You don't like snakes. Thank you.
みなさん, S2は今, 何と書いていましたか?
Ss: 「No, I don't. と書いていた。」 「蛇は嫌いと言った。」 (などと口々に発言する)
T: そうだね, 嫌いなだね。
それから, No, I don't. NoのあとにI don'tと言ったのを聞いていた人もいたね。Good. S1さんに戻ってもう一度聞いてみよう。みんなで聞いてみようか。
Do you . . .
Ss: Do you like snakes?
S1: Yes, I do.
T: Good job!!

紙面の都合上、対話の全てを記すことは割愛しましたが、タイプ2と3では、次のことを意識しています。

- 1 蛇が好きかという問いに対する、「好き」「嫌い」の面、すなわち、「意味」にまず注目すること。
- 2 S1ひとりではなく、S2との対話、続けて全員というように、対話の参加者を増やすこと。
- 3 「形式」についての気付きについても触れていくことにより、最終的にS1も“Yes”の後に“I do”をつけられるようになること。

5. まとめ

私達は、児童に必然性のあるコミュニケーション体験を数多く積ませたいと考えて Small Talk を授業の中に位置付け、さらに授業全体に広がるよう授業改善を進めてきました。

その結果、徐々にではありますが、児童が自分の言葉で話すことが自然にできるようになってきましたし、英語を話すことに抵抗感もなくなってきています。教師も、やり取りの中で英語を学ぶようになってきました。また、他教科においても、やり取りを重視した授業を意識するようになり、教育活動全体で授業改善が進んでいます。

我々教師は、「活動の目的は何か、そのために自分自身はどういう力を身に付けなくてはいけないのか」を正しく見極め、Small Talk をはじめとした言語活動をしっかり位置付けて、「教えてから話させるのではなく、話しながら教える」やり取りを大切に、言語活動の充実を図っていくべきであると考えています。

水上 直子(みずかみ・なおこ)

福井県越前市坂口小学校教頭。昨年度まで、県指導主事小学校英語担当として、勝山市を中心に県内小学校の授業改善に取り組む。



林 裕美(はやし・ひろみ)

福井県勝山市立成器西小学校教諭。6年生担任。勝山市で率先して授業改善に取り組み、県教委作成の授業動画資料DVDにモデル授業者として出演するほか、県内外の先生方にも積極的に授業を公開している。



評価はどうか？

次期学習指導要領での外国語科・外国語活動の評価はどのようなものになるのでしょうか。

評価の観点や方法についての注目すべきポイントを、信州大学の酒井英樹先生にうかがいました。

1. はじめに

移行期間においては、内容については次期学習指導要領の趣旨を踏まえた上で先行して取り扱ってよいことになっているので、文字と音の関係に気付かせたり文字を書かせたりしてもよいということになります。一方で、評価については原則として現行の枠組みでおこなうことになっているので、現行の外国語活動に関する評価の観点（「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」）で児童の学習状況を評価し、顕著なことがある場合には文書により記述することになります。移行期間においては、外国語活動・外国語において育成すべき資質・能力がどのようなものであるかをよく理解し、今後どのように児童の学習状況を把握したらよいかについて検討し、準備をしておくとうよいと思います。

2. 次期学習指導要領における評価の観点

本原稿執筆時点では、まだ指導要録の書き方（つまり、学習状況の評価の在り方）に関して検討されているところであり、最終的な決定がなされていません。そこで、本節では、中央教育審議会の答申の情報に基づいて、次期学習指導要領における評価のポイントを3つ挙げたいと思います。

第1に、評価の観点はどの教科も3つの観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）で評価をすることになっています。現行の学習指導要領における評価では、4つの観点（「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」）を参考にして、学校の設置者が評価の観点を定め、評価をおこなうこととされていました。国立教育政策研究所より各教科の特性に応じた評価の観点の参考例が示されていますが、外国語活動の評価の観点は、関心・意欲・態度については「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、思考・判断・表現と技能については「外国語への慣れ親しみ」、知識・理解については「言語や文化に関する気付き」という3つの観点となっています。それが、今回の学習指導要領の改訂では、どの教科においても共通して3つの観点で評価をする方向が示された点に留意する必要があります。学校教育法で示されている学力の3要素に対応する形で、今回の学習指導要領の改訂では、各教科で育成すべき資質・能力が3つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）の点から整理されています。この資質・能力が育成されたかどうかを評価することになりますので、評価の観点については3つにするの

が合理的であるという考えに基づいています。

第2に、外国語活動では、「思考・判断・表現」と「技能」という2つの観点を合わせて、「外国語への慣れ親しみ」という評価の観点を設定していましたが、「技能」は「知識・理解」と統合され、「知識・技能」という1つの観点になりました。これに応じて、外国語活動や外国語科においては、「思考・判断・表現」の観点から児童の学習状況を評価することになりました。どのような「思考力、判断力、表現力等」を育成するのか、またどのように評価するのかということについて、新たに考える必要が生じたのです。これについては第4節で再度取り上げます。

第3に、「関心・意欲・態度」が「主体的に学習に取り組む態度」に変更されました。この変更は、学力の3要素で示されているももとの表現に倣ったものです。また、目に見える児童の態度を評価することはできませんが、児童の関心・意欲という目に見えない状態を評価するのは難しいという点も理由の1つです。「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を評価する観点として「主体的に学習に取り組む態度」という評価の観点が提案されていることを考えると、粘り強く学習に取り組む態度だけでなく、自分の学びを把握し、次なる目標を設定したり、学習の見通しを立てたりするなどの児童の主体的な取り組みを評価することが重要となります。自分の学びを自分で調整する自己調整力の評価が含まれると考えられます。

3. 次期学習指導要領における評価方法

小学校において外国語が教科化された次期学習指導要領が全面实施されると、観点別の学習状況の評価とそれを総括する評価を付けることになります。評価や評定というと、ペーパーテストをおこなわなければならないという先入観があるかもしれませんが、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成が目標であることを考えると、すべての資質・能力をペーパーテストで把握できるかどうかは慎重に検討する必要があります。例えば、高学年外国語の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標には、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。」と書かれています。コミュニケーションをおこなう目的や場面、状況などに応じて、聞いたり話したりする力を把握する場合、実際に英語を聞かせたり話させたりする必

要があります。聞くことについてはペーパーテストの方法を採用することができるかもしれませんが、話すことについては実際にパフォーマンス（実際に英語を使って話すこと）をさせないと評価することはできません。

中央教育審議会の答申では、ペーパーテストだけでなく、さまざまな評価方法を活用するようになっているとされています。具体的には、作品、ワークシート、ポートフォリオ、パフォーマンス評価等、趣旨に照らし合わせて適切なものを選ぶようにということが言われています。

高学年外国語においては、聞くことや書くことについては、作品やワークシートを回収して評価することも可能です。例えば、教師の説明を英語で聞きながら、絵を選ぶ活動をおこない、そのワークシートを回収することで絵を選んでいたかを把握することができます。また、夏休みの絵日記を作成する活動においては、絵日記を作品として提出させることで、参考となる語句や例文を見ながら、自分の夏休みについて英語を書き写しているかを評価できます。話すことについては、パフォーマンス評価だけでなく、授業の活動状況の観察なども評価方法として活用できます。

中学年外国語活動の評価については、ペーパーテストやパフォーマンス評価のように、授業と離れて実施する評価方法はふさわしくありません。外国語活動では、単元で設定された言語活動において必要な語句・表現を単元の中で気付き、その意味や使い方を理解し、聞いたり話したりする練習をおこない、最終的に言語活動の中で使っていることが期待されるべき姿です。覚えたり、指導やモデルなしで聞いたり話したりすることまでは求められていません。そのため、別の時間にテストをすることは、覚えていることや自力で英語が使えることを前提とするため不適切であると考えられます。外国語活動においては、授業時間内の児童の様子を把握することが大切です。外国語活動の評価方法としては、授業中の行動の観察やワークシートなどがあります。

4. 「思考・判断・表現」の評価について

先述のように、「思考・判断・表現」の評価については、今後議論をしていくことが必要です。「思考・判断・表現」に関する評価方法について3つの可能性を挙げます。

第1に、コミュニケーションをおこなう目的や場面、状況を明確にした言語活動を遂行させ、その目的や場面、状況に適切なパフォーマンスができていれば、「思考・判断・表現」の観点から十分満足できる状態であると判断する方法です。たとえば、「ALTに自分のことをもっと知ってもらうために自己紹介してください」という課題に対して、児童が名前に加えて、I like baseball. と紹介した場合、伝える内容を考え、その中から課題の目的に応じて名前と好きなスポーツという情報を選択し、英語で表現したと考え、児童の「思考力、判断力、表現力等」に関わる資質・能力が活用されていたと判断できます。

第2に、目的や場面、状況を少しずつ変えて複数の課題を与える方法です。たとえば、「自己紹介する」という課題について、

相手をALT、担任、友だちというようにかえて、自己紹介をさせます。その際、相手によって、表現の方法や伝える情報を変えている姿があれば、「思考力、判断力、表現力等」を働かせていたと判断できます。

第3に、児童の考えたことを可視化する方法です。たとえば、パフォーマンス評価のあとに、どんな点を工夫していたかを尋ねたり、振り返りカードなどでどのようなことを考えて言語活動をおこなっていたかを尋ねたりすることで、目的や場面、状況に応じて英語を使っていたかどうかを評価することができます。

5. 評価のタイミングについて

最後に評価のタイミングについて取り上げます。評価は授業ごとにおこなうのではなく、単元や内容のまとまりに応じておこなうことが中央教育審議会の答申において指摘されています。たとえば、『We Can!』で扱われている Small Talk は、既習の表現を総動員しながら会話を継続させる力を養うための活動です。この力は、徐々に伸びていくものであり、授業ごとよりは、単元や学期ごとに評価したほうがよいと思われます。また、英語の大文字や小文字を書く力の評価の場合、導入や指導時期と習得時期にずれがあり、すべての文字を書けるようになるには長い時間が必要です。5年生の5月に導入したからといってすぐに評価するのではなく、1年間文字を書かせる経験をさせ、学年の終わりに評価するといった工夫をすることが求められます。

また、複数の評価の観点を同じタイミングで評価するのか、それとも異なるタイミングで評価するのかということも工夫する必要があります。あるパフォーマンスについて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で同時に評価することも可能であると認識することが重要です。たとえば、スピーキングテストで、What color do you like? と聞かれたときに、児童が I like パープル. と答えたとします。この児童は質問されたことに対して考え、いろいろな情報の中から答えを選択し、I like... という英語の表現を用いており、適切に答えていると言えます。その点で、「思考・判断・表現」は十分満足できる状況と判断し、Aをつけたとします。一方で、それ以前の授業において、色の言い方や日本語との違いに気付かせたり、色の言い方を聞いたり話したりする言語活動を十分おこなってきたにもかかわらず、I like purple. ではなく、I like パープル. と発音していれば、「知識・技能」の面では努力を要する状態であると判断し、Cをつけることになりません。つまり、同じパフォーマンスを見て、複数の観点で評価することが可能であり、その方法やタイミングは今後検討が必要です。

酒井 英樹(さかい・ひでき)

信州大学教授。テンブル大学大学院博士課程修了。教育学博士。専門は英語教育学、第二言語習得。中学校英語教科書 NEW CROWN 編集委員。著書に『小学校で英語を教えるためのミニマムエッセンシャルズ』（共著、三省堂）、『小学校外国語活動 基本の「き」』（大修館書店）、『小中連携を意識した中学校英語の改善』（共著、三省堂）がある。



Tips for Activities!

やってみよう
英語活動

埼玉県さいたま市の「グローバル・スタディ」のカリキュラムの中から、I want to go to ～. の導入のための活動を紹介しします。子どもたちがより具体的にイメージできるように、今回は住んでいる都道府県の中から行きたい町を言ってみる活動をしします。

「行ってみたい場所を伝えよう」(第4学年)

① 「話したい! 聞きたい!」と思わせるために

住んでいる都道府県の中で自分が行ってみたい場所について意欲的に相手に伝えるには、英語の学習の前段階で、地域についての学習を深めておくことが大切です。

② デモンストレーション

子どもに獲得させたい英語表現との出会いが、このデモンストレーションです。ここでの見せ方を工夫することで、その後の意欲につながります。

学級担任(HRT)とEnglish Staff(ES)*で、以下のようやり取りをおこないます。

(*English Staff…ALT, JTE, 専科教員など)

HRT: Hello.

ES: Hello. (住んでいる都道府県の地図を見て)

Oh, that is a map.

HRT: Oh. There are many cities.

ES: I want to go to ○○ city. How about you?

HRT: I want to go to △△ city.

ES: Oh, I see.

どんなやり取りがおこなわれているかの気づきを生むために、このやり取りを2～3回繰り返します。I want to go to をわかりやすく言ったり、2回目以降は子どもを巻き込んで発話させてみたりします。ここでのポイントは、指導者がジェスチャーや笑顔、アイコンタクトをしっかりとおこない、子どもに「自分も話してみたい」と思わせることです。

③ めあての確認をする

デモンストレーションを見せたあと、子どもに「今どんなことを話していたかな」と問い、全体の理解を確実にしてから、めあて「自分が行ってみたい場所を相手に伝えよう」を黒板に書きます。黒板に書くことで、本時のゴールがいつでも確認でき、指導者から子どもへ「今日はここを評価するよ」というメッセージにもなるからです。

④ 慣れ親しませる活動

デモンストレーションで十分に「聞く」活動をおこなったあと、「話す」活動に入ります。ここでは、I want to go to ～. を使った仲間集めゲームを紹介しします。時間内にたくさんの仲間を集めるというシンプルなルールです。次のような流れでおこないます。

(1) 教室内を歩き、話す相手を見つける。

(2) 挨拶をし、ジャンケンをする。

(3) 勝った方が先に話す。

“I want to go to ○○ city. How about you?”

(4) 負けた方は答える。“I want to go to △△ city.”

(5) 行きたい場所が同じだった場合はその後の行動を共にする。異なる場合は、挨拶をして別れる。

ここでのポイントは、「いきなりゲームに入らないこと」です。発話に自信がもてない子どもは、歩き回る活動になると、声が小さくなったり何もせず固まったりしてしまいます。そこで、歩き回る前に隣同士のペアでやらせたり、子どもを前に出して見本を見せたりします。そうすることで活動のスタートがそろい、活動量も十分確保できます。活動のまとめとしては、集まったグループごとに自分たちの行きたい場所を伝えて、全体で共有します。

慣れ親しむ活動においては、子どもが楽しく、夢中になって自然にたくさん発話できるようにし、その後の発展活動につなげていきましょう。

参考: 樋口忠彦(2017).『小学校英語教育法入門』東京: 研究社.



Teacher Talk

歌を歌ったりゲームをしたりと、楽しい活動が多い英語の時間。子どもの授業態度が乱れてくるとつい日本語で注意したくなりますが、できるだけ英語を使いましょう。

授業規律を保ちつつ、楽しく学んでいける環境を作っていきたいですね。

Good posture, please. (いい姿勢にしましょう。)

Face up, please. (顔を上げて。)

Watch me, please. (こっちを見てください。)

宮本 拓実(みやもと たくみ)

さいたま市立大砂土東小学校教諭。現在1年生の担任をしている。今年度から同校の研究主任として「グローバル・スタディ」の研究を進めている。



「グローバル・スタディ」の取り組み ～学びの連続性を目指して～

さいたま市の「グローバル・スタディ」は、英語を核とした総合的な学びとして、「将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒の育成」を目指し、平成28年度から小・中9年間を一貫した教科として、全ての市立小・中学校で実施しています。

発達段階に応じたカリキュラムを工夫しており、小学校低学年では、歌やゲームの活動を中心に、数や色、動物などの言葉を扱い、英語の音声等に慣れ親しみながら、英語によるコミュニケーションを図ることができるようになっています。中学年では、好きなものについてのやり取りや、スポーツや買い物の場面など、日常生活を中心とした英語によるコミュニケーションを図る活動を通して、コミュニケーションの大切さを認識することを目指しています。高学年では、これらの

学習の積み重ねの上に、「読む」「書く」活動も加えながら、さいたま市や日本の魅力を紹介するなどの活動を通して、自分の思いや考えをもって、コミュニケーションに取り組むようになっています。中学校では、このコミュニケーション能力を十分に活用できるようなカリキュラムにつなげています。

新学習指導要領全面実施に向けて、これらの学習を一層系統的に、そして、小・中・高等・特別支援学校と学びの連続性を視野に入れ、新たな展開へとつなげていきます。

辻 美由紀(つじ・みゆき)

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事兼国際教育係長。さいたま市内の公立小学校教諭・教頭、さいたま市教育委員会指導主事を経て、2017年度から現職。



VIVA 100KING!



我輩は100KING。100円SHOPは教材やお助けグッズの宝庫。今回は抽選箱を紹介するぞ。

パーティーグッズとして売られている抽選箱は、さまざまな活動で使える、まさにお役立ち商品じゃ。

たとえば、いろいろな色のカラーボールや手芸用ポンポンを入れて、児童に“What color do you like?”とたずねてみよう。たずねられた児童は英語で答えたと、抽選箱の中から1つを引く。好きな色が引ければハッピー！という、シンプルだが盛り上がる活動になるぞ。中に入れるものを食べ物やスポーツなどの絵カードにすれば、色以外のやりとりも可能じゃ。

そのほかにも、箱の中に何が入っているか触って当てるWhat's this?の活動など、使い方はアイデア次第。

ちゃり～ん。抽選箱はもちろん100円。中に入れるものも100円で買えるぞ。お得じゃの。また会おう。ふおっふおっふおっ。

抽選箱



カラフルボール 10個入

小学校英語向け デジタル教材

チャンツとチャンクで身につく!

音感

おとかん



キッズクラウン

下 薫 (Julie Kaoru Shimo) ・三省堂編修所 編

場面で話せる英単語 Part 1

短い時間で、聞いて/覚えて/話せる! 新しいコンセプトの英単語学習教材!



カテゴリごとに特色のある場面を設定! 同じ英単語をさまざまなパターンで練習することができます。

●WordボタンがONの状態をクリックすると...

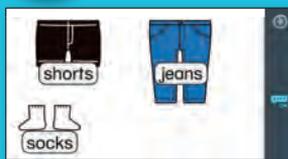
hat

●ChunkボタンをONにすると...

a yellow hat



文字の表示もON/OFF可能!



英単語ごとのフラッシュカードでも提示できます!



sweater



ゲーム性のあるActivityも収録!



I like my yellow T-shirt.



歌やチャンツも収録!

Clothes Chant (抜粋)

A cap, a shirt, jeans and sneakers. These are the clothes I want to wear. ~

収録カテゴリ

Alphabet Jingles / Animals / Classroom / Classroom English / Clothes / Colors / Conversation / Family / Feelings / Fruits and Vegetables / House and Chores / Numbers / Opposites / Routine / Shapes / Sports / Subjects / Time / Action Verbs / Weather 各カテゴリにワークシート付き!!

販売価格

Windows版	校内フリーライセンス:38,000円 (税別)
または	校内年間ライセンス:10,000円 (税別)
iPad版	シングルライセンス: 4,500円 (税別)
ハイブリッド版	校内フリーライセンス:50,000円 (税別)
(Windows+iPad)	校内年間ライセンス:13,000円 (税別)

動作環境

Windows7/8.1/10
※OSが快適に動作するパソコンでご利用ください。
iPad (第5世代以降), iPad Air2, iPad Pro
※iOS10以上
端末の空き容量は1GB程度をご用意ください。

商品紹介サイトもご覧ください!
<https://tb.sanseido-publ.co.jp/otokan>
体験版もお申し込みいただけます。



※校内ライセンスはご購入いただいた学校内の端末のみを対象とし、台数の制限なしでインストールできるライセンスです。シングルライセンスは1端末のみのインストールとなります。フリーライセンス・シングルライセンスに利用期限はありません。

本製品に関するお問合せがございましたら下記までお願いいたします。

株式会社三省堂 デジタル事業推進部 TEL: 03-3230-9416 E-mail: info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

三省堂教科書・教材サイト <http://tb.sanseido.co.jp>

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)

- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 TEL (06) 6341-2177
- 名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-21-31 協和丸の内ビル 2F TEL (052) 953-9211
- 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL (092) 531-1531
- 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F TEL (011) 616-8722